

拷問

ポリシーステートメント

© World Physiotherapy 2019
www.world.physio

拷問

WCPT（世界理学療法連盟）は、世界中の加盟組織と理学療法士に、以下の原則に従うよう呼びかける。

- 理学療法士は、拷問や、残虐又は非人道的又は品位を傷つける行為を支援、黙認してはならず、それらの行為に参加してはならない。これには、兵器が加わる紛争や内戦などすべての状況を含み、対象者の信条や動機、罪や起訴の有無、違反行為の種類にかかわらず、禁ずるものとする。
- 理学療法士は、拷問やその他の残虐で非人道的又は品位を傷つける扱いや、それらの扱いを拒否する能力を人から奪うような行為を助長する場所や道具や薬や知識を提供してはならない。
- 理学療法士は、残虐で非人道的又は品位を傷つける行為が繰り返される、あるいは、その行為を脅迫として使用する現場に居合わせてはならない。
- 理学療法士の根本的役割は、人の苦痛を和らげることである。個人的であれ、集団的であれ、政治的であれ、いかなる動機もこの目的に反するものであってはならない。
- 理学療法士は、拷問の影響による一般のおよび具体的な、身体的かつ心理的な機能的制限、参加制約、損傷、また、生存者に適切な機能検査／評価、介入／治療を理解する必要がある。
- 理学療法士のためのエントリーレベル専門教育プログラムと継続専門能力開発プログラムのカリキュラムには、拷問による身体的又は精神的後遺症を抱える人を含む、弱者に向けた治療基準を含めるべきである。

WCPTは、国連の「拷問等禁止条約」を支持する。また、加盟組織に対し、各国の政府にこの条約に署名するよう説得するよう求める。（注1）

WCPTは、国際コミュニティ、加盟組織、理学療法士に対し、同僚の理学療法士や理学療法士の家族が、拷問や残虐で非人道的又は品位を傷つける行為を拒否したことを理由に脅迫や報復行為を受けた際には、彼らを守るよう促す。

Approval, review and related policy information	
Date adopted:	First adopted at the 13th General Meeting of WCPT June 1995. Revised and re-approved at the 16th General Meeting of WCPT June 2007. Revised and re-approved at the 17th General Meeting of WCPT June 2011. Revised and re-approved at the 18th General Meeting of WCPT May 2015. Revised and re-approved at the 19th General Meeting of WCPT May 2019.
Date for review:	2023
Related WCPT policies:	WCPT ethical principles WCPT policy statements: <ul style="list-style-type: none">• Ethical responsibilities of physical therapists and WCPT members• Patients'/clients' rights in physical therapy• The consequences of armed violence, landmines and other weapons of war

References

1. United Nations. Convention against Torture and Other Cruel, Inhuman or Degrading Treatment or Punishment. New York, USA; 1984. www.ohchr.org/en/professionalinterest/pages/cat.aspx (Access date 29 August 2019)

© World Confederation for Physical Therapy 2019